

《共通科目》

授業科目名	保健・看護総合特論 <i>Advanced Studies in Health Care and Nursing</i>		担当教員	中村 光江	
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	15(1)
必修選択	選択 (保健・看護コース必修)	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	科学とは何かを考察し、看護学・保健学が目指す科学の在り方を探究したうえで、臨床における看護実践および看護研究の意義について検討し、自身の学問探究の方向性への手がかりを得る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学とは何かについて考察し、議論することができる。 2. 科学における看護学・保健学の意義や、看護学・保健学が学問として目指す方向性について考え、議論することができる。 3. 看護現象をどのように探究していくのか考え、議論することができる。 4. 自身の学問探究の方向性を考え、手がかりを得ることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 様々な看護実践や臨床で経験した現象を想起し、看護実践とは何かについて議論する。 2回 臨床から発見される知とは何か、自身の体験や文献を基に議論する。 3回 科学とは何か(1) 文献学習による考察を基に議論する。 4回 科学とは何か(2) 文献学習による考察を基に議論する。 5回 科学とは何か(3) 文献学習および討議による成果を発表する。 6回 科学における看護学・保健学の位置づけや、看護学・保健学が学問として目指す方向性について議論する。 7回 看護学・保健学における実践と研究および理論との関係について考える。 8回 看護学・保健学の専門性探究の意義について考察し、自身の学問探求への手がかりを得る。 				
学習方法	<p>本科目は本学研究科における導入科目と位置付けられる。</p> <p>まず、自身の看護実践の想起や臨床で経験した現象から、看護実践について考察する。次に、文献から得た知識をもとに「科学とは何か」を考察し、議論を通して考えを深め、看護学・保健学が目指す科学について探索する。それらを踏まえ、看護学・保健学における実践と研究、理論の関係を探索し、自身の学問探求の方向性について考察する。</p> <p>文献学習に使用する資料は事前に指定する。</p>				
オフィスアワー	<p>火・木曜日の昼休み</p> <p>メール(m-nakamura@jrckicn.ac.jp)にてアポイントをとってください。</p>				
テキスト	<p>村上陽一郎：新しい科学論—「事実」は理論をたおせるか。東京、講談社、1979。</p> <p>中村雄二郎：臨床の知とは何か。東京、岩波新書、1992。</p>				
参考文献	<p>村上陽一郎：近代科学を超えて。東京、講談社、1986。</p> <p>佐々木力：科学論入門。東京、岩波新書、1996。</p> <p>P. L. Chinn.& M. K. Kramer: Integrated Knowledge Development in Nursing 2004. 川原由香里監訳：看護学の総合的な知の構築に向けて。東京、エルゼビア・ジャパン、2007。</p> <p>T.S. Kuhn: The Structure of Scientific Revolution.1970, 中山茂訳：科学革命の構造。東京、みすず書房、1971。</p>				
評価方法	授業への参画 30% (ディスカッション・プレゼンテーション・グループワーク) レポート 70%				